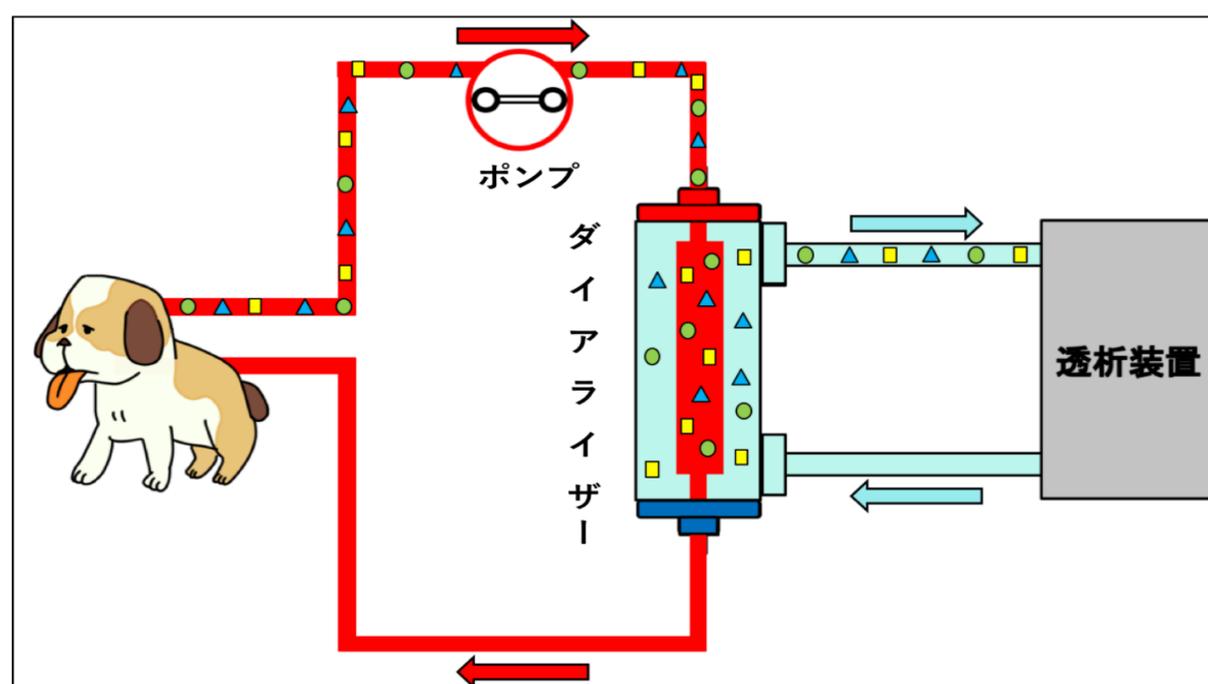


- 腎前性: 輸液療法により腎血流量、血圧の正常化を図ります。
- 腎性: 原因薬剤・物質の除去、原因病態の治療を行います。
- 腎後性: 速やかな尿路の確保と閉塞の解除を行います。

いずれの原因によっても共通の事項が原因の除去と全身状態の管理となります。全身状態の管理としては、栄養管理、水や電解質管理を中心とした保存療法がメインとなります。

腎前性、腎後性は一般的には原因疾患の除去と適切な治療を行うと速やかに腎機能は回復しますが、障害が長期間に及ぶとGFRの低下をきたし、腎性の急性腎障害へと進行します。どの病態にせよ速やかに治療を行わなくてはなりません。

## 血液透析とは

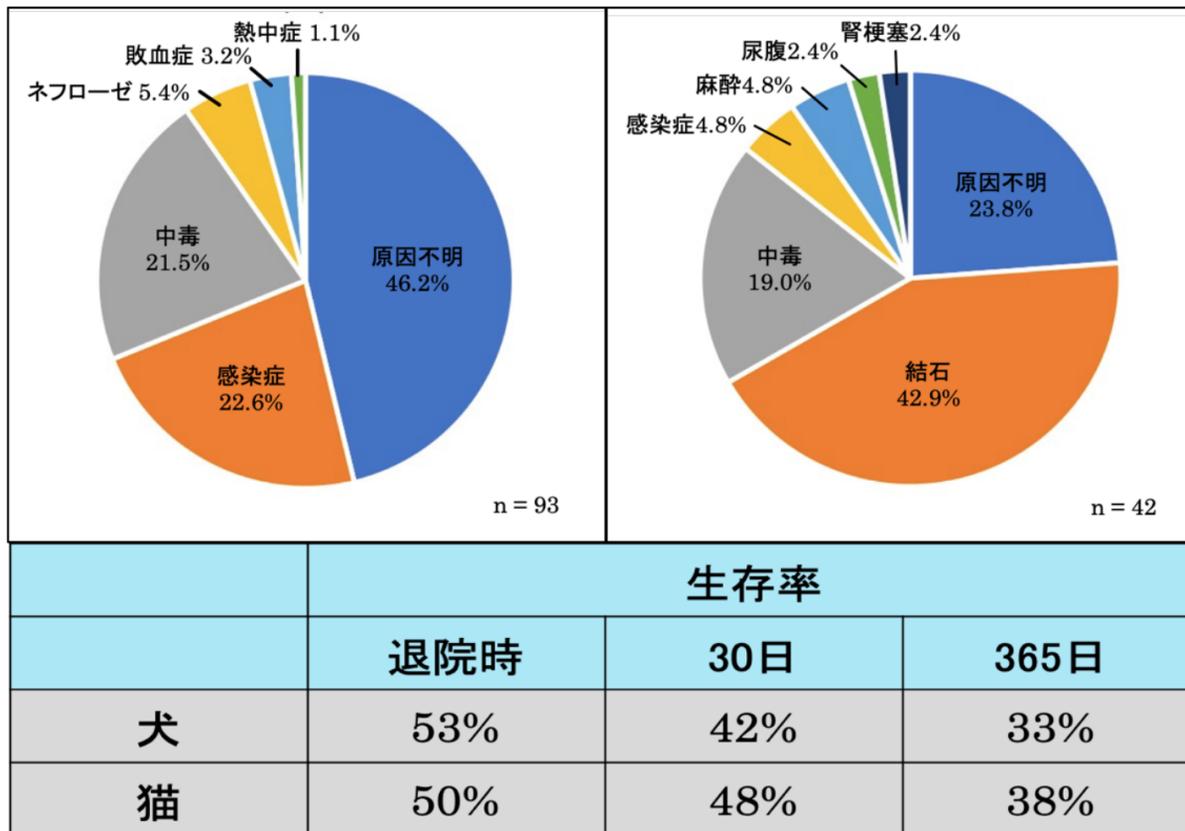


血液透析は体外循環を使用した血液の浄化を目的とした治療方法です。カテーテルから脱血した血は、回路を回ってダイアライザーという装置に入り、そこで浄化し返血するというものです。

### 図2. 血液透析の原理

一般的な治療に反応しない症例は血液透析の適応となります。具体的には過剰水和、治療抵抗性の高カリウム血症や代謝性アシドーシス、重度の尿毒症症状などが認められる場合に血液透析を選択します。

血液透析による治療は腎機能が回復するまでの間、体の恒常性を保つことが目的となります。どれくらいの期間で回復するかは症例のベースの腎機能、障害の原因や程度によって様々です。



AE Eatroff et al. J Am Vet Med Assoc 241 (11), 1471-1478. 2012 Dec 01.

**図3. 血液透析を行なった患者の原因と生存率**

獣医療でも血液透析を行なった急性腎障害の症例の生存率の報告があり、およそ50%の症例が退院でき、30日生存できた症例の80%は1年以上の生存期間が得られるという結果でした。

## 症例紹介

柴犬、未避妊雌、1歳11ヶ月。  
水溶性下痢、血便を主訴に紹介病院を受診しました。

入院下にて対症療法を実施し、消化器症状は改善しました。しかし入院中排尿を認めなかったため、血液検査を行なったところ、腎パネルの上昇、重度高カリウム血症が確認され、当院に紹介来院しました。



## ネコが好むトイレ

環境改善のまず第一歩はトイレの問題を改善することです。詳細な問診を行なっていくと、環境ストレスだけでなくトイレに問題がある場合も非常に多いです。飼い主にはネコが好むトイレを意識していただくようにします。

- ・ トイレの数は 飼育頭数 + 1 個
- ・ 常に清潔であること
- ・ トイレの大きさが体長の1.5倍
- ・ 静かでアクセスしやすい場所にある
- ・ 砂を敷く

## 多面的環境改善

トイレは複数個ありますか？ (頭数+1個 以上が最適)

キャットタワーやタンスの上など  
高い所に登れる環境がありますか？

嫌なことがあるときに隠れる場所がありますか？

走り回ったり遊んだりする空間がありますか？

同居している人間や動物との関係は良好ですか？

狩猟本能が満たされるような遊びをしていますか？  
(ネコじゃらしなど)

室内の各部屋を自由に行き来することが出来ますか？  
(ゲージや一つの部屋に入れっぱなしにはしていませんか？)

食べているご飯はドライフードのみですか？

トイレ以外の部分でもネコにとって快適で健康的な環境を満たすために工夫できるポイントはいくつかあります。普段生活する環境の中で、ネコを取り巻く様々なストレス要因を把握することは治療プランを考える上で重要です。

また、抗菌薬や止血剤、鎮痛を目的として投与するNSAIDsはFICの症状に対して効果がないことがわかっています。FICに対する排尿痛に関してはブプレノルフィンやブトルファノールといったオピオイド系の鎮痛剤を用いることが望ましいでしょう。

FICは様々な要因が複合して発症すると考えられており、飼い主が考えるストレスとネコにとってのストレスが違うこともあるため、ネコのためにと考えてやっていたことが悪化要因であるケースも様々です。

FICとうまくつきあっていくためには水分摂取と多面的な環境改善が治療のメインであり、飼い主とこの病気を理解し、共に協力していくことが重要と考えています。

## ストレス要因を探る

普段生活する環境の中で、ネコを取り巻く様々なストレス要因を把握することは治療のプランを考える上で重要です。

ストレスの心当たりはないですか？		
留守番が多い	単身赴任の旦那様が帰って来る	尿道カテーテルの頻繁な挿入
同居の動物と仲が悪い	部屋の行き来ができない	来客があった
近所が工事中	飼い主がネコのトイレを常時見張っている	引っ越し
孫が頻繁に遊びに来る	関節症を患っており疼痛がある	トイレの砂のタイプを変えた
病院が嫌い	同居の動物と死別	新しい動物を迎えた

近年、新型コロナウイルスが流行してからネコちゃんの頻尿・血尿での来院が増えた印象があります。頻尿・血尿のネコちゃんの飼い主様にお話をよく伺うと、昨年から続くコロナ禍の影響で、飼い主さん自身がリモートワークで自宅にいる時間が増えた、リモートワークになってから症状が出ている気がする、というケースが非常に多いと感じております。

飼い主の行動、予定の変化がネコにとってストレスの原因となることからこういった飼い主自身のライフスタイルの変化も、我々獣医師はコミュニケーションを深めて詳細に問診しなければなりません。

## FICとのつきあい方

FICの治療目標は臨床症状の軽減、再発回数を減らすことです。

そのためには、

**飲水量を増やす工夫をすること**

新鮮な水を用意する・水飲み場を増やす・ウェットフードを利用する

**多面的な環境改善に努めること**

この二つが非常に重要であると考えております。